中割校区「地域づくりアンケート」回答結果

（2022 年アンケート）

【分析結果】

「質問 2 の項目」（5 年後・10 年後こうなるといいな）から浮かび上がった校区の姿は、次のようである。

5 年後・10 年後の願う校区の姿は、まず社会基盤となる「防災対応」で、「災害に強い地域づくり」にある。災害時に避難できる丈夫な避難場所が確保され、災害に強い地域づくりができている。

これを基盤に、人生航路に沿って 3 つの要素の実現を思い描いている。

第 1 は「次世代の継承」で、「育成支援の充実」にある。結婚・子どもの増加・子育て・学校教育の支援が充実している。

第 2 はこの人生航路の先にある「現役世代の活躍」で、「地域資源に根ざし産業の再起動による人口と交流の拡大」にある。農業等の一次産業と観光産業、商業を軸に、産業支援・住宅支援をすることで定住人口と交流人口が増えている。

第 3 はこの人生航路の先にある「老後の生活」で、「生きがいのある日々」にある。高齢者が自立した活動ができる地域生活基盤と見守り・支援体制が整えられ、住みやすく生きがいのある日常生活がおくれる地域になっている。

そしてこの人生航路の先で、第 1 の「次世代の継承」へとバトンタッチする。

このようは人生航路を歩む立脚基盤をなすのは「地域共同体の保持」で、「負担軽減による自治活動」にある。校区と集落の自治活動の住民負担を軽減したうえで、伝統的な自治活動が維持できている。

このような姿の背景に潜在する「地域の変わらないか価値」は、「自然と文化のなかの暮し」にある。このまま穏やかな自然と文化のなかで暮らしていきたい、という思いである。

以上が、校区の 5 年・10 年先の「将来像」である。

【「その他」記入欄意見】

【「質問 3」自由記述欄意見】

校区が5年後・10年後こうなるといいなと思うものはどれですか？「質問項目2」から浮かび上がる校区の姿

中割校区：全体集計

③ 現役世代の活躍：地域資源に根ざした産業の再起動による人口と交流の拡大

C001　農業等の一次産業と観光産業、商業を主軸に、産業支援・住宅支援をすることで定住人口と交流人口が増えている。

B004　農業等の一次産業と観光産業、商業を主軸に、産業支援をすることで定住人口と交流人口が増えている。

A005　農業等の一次産業と観光産業の発展を主軸に、企業の維持・拡大を支援することで、定住人口と交流人口が増えている。

004　農業等を核とした一次産業の発展により人口が増えている。

010　観光客が増えるように観光地化し、交流人口が増える。

007　既存企業への支援や企業誘致により働く場の確保ができている。

通底し

005　大型ショッピングセンターやコンビニを誘致し、交流人口が増える。

連動させ

A003　空家も活用して移住者を受け入れて人口が増えている。

001　移住者を受け入れて人口が増えている。

連動させ

008　空き家が管理できる仕組みを構築し、人口が増える。

人生航路の先で

人生航路の先で

② 次世代の継承：育成支援の充実

B003　結婚・子どもの増加・子育て・学校教育の支援が充実している。

A001　子どもの増加・子育て・学校教育の支援が充実している。

002　単身者が結婚できるようサポートし、人口が増えている。

その上で

003　小学校の留学生を増やし、複式学級がなくなる。

014　安心して子育てできるような子育て支援が充実している。

④ 老後の生活：生きがいのある日々

B002　高齢者が自立した活動ができる地域生活基盤と見守り・支援体制が整えられ、住みやすく生きがいのある日常生活がおくれる地域になっている。

A002　校区内に高齢者の拠点施設や見守り・支援体制が整えられ、住みやすく生きがいのある日常生活がおくれる地域になっている。

015　健康寿命を伸ばし、自立した高齢者が増えている。

006　校区内で高齢者施設や拠点施設をつくり、見守り体制の構築や生きがいづくりの場ができている。

012　ゴミ出しや草刈などの支援や見守り、安否確認ができる支援が増え、高齢者が住みやすい地域になっている。

009　高齢者がいつでも移動できる交通機関の手段を確保し、行きたいところに移動できる。

人生航路の先でバトンタッチ

⑥ 地域の変わらない価値：自然と文化のなかの暮し

016　このまま穏やかな自然や文化のなかで暮らしていきたい。

背景に潜在し

立脚基盤

立脚基盤

⑤ 地域共同体の保持：負担軽減による自治活動

B001　校区と集落の自治活動の住民負担を軽減したうえで、伝統的な地域自治活動が維持できている。

A004　校区と集落の役員と住民の労力・負担金を減らし、最小限の自治活動と住民生活が維持できている。

018　行事は最小限にし、区長や集落長など役員の負担を減らすことにより自治会が維持できている。

017　集落費や校区費を下げて現在、住んでいる地域に住み続けている。

その上で

013　住民同士の交流を深めることにより、地域行事を存続できている。

社会基盤

① 防災対応：災害に強い地域づくり

011　災害時に避難できる頑丈な避難場所が確保され、災害に強い地域づくりができている。

019　その他：

■アンケート集計結果

ランク	得点幅	模様
A	２５～３０	
B	１９～２４	
C	１３～１８	
D	７～１２	
E	１～６	

（最高得点：30点）
（回答者数：50人）

(1) 2021年7月9日
(2) 情報工房
(3) 校区アンケート「質問2」の質問18項目
(4) 山浦晴男

注1) 文頭の数字は、質問項目の番号を示す。
注2) 文頭のアルファベットは、階層構造の段階を示す。
注3) 左上の丸数字は、分析結果の解説のストーリーの流れを示す。